



# 通信

## vol.3

March 2020

石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク  
ニュースレター

### The Shimecchi Report



## 篠路福移湿原レスキュー

かつて石狩川流域に広がっていた湿地は、そのほとんどが失われてしまいました。わずかに残された湿地では保全活動が行われていますが、埋め立てや開発等から保護しきれていない場所も存在します。消失の危機にある動植物を救出し、少しでも多く後世に残せるよう、私たちはレスキュー活動を行っています。

6月9日、篠路福井湿原のワタスゲとホムロイスゲのレスキューを行いました。篠路福移湿原は、現在、残土受け入れ業者による不当な埋め立てによって湿原の生態系は危機にあります。これを止めるために「認定NPO法人カラカネイトンボを守る会 あいあい自然ネットワーク」はトラスト運動を行っています。不当な埋め立ては続いているのが現状です。今回救出したワタスゲやホムロイスゲを含む貴重な湿生植物は、生息環境の悪化により毎年数を減らしており、湿地を好む昆虫や鳥類等も今後は見られなくなる可能性があります。

私たちは今後も救出活動を実施するほか、不当な埋め立てを抑止する方法も考えていかなければなりません。環境首都、そしてSDGs未来都市である札幌市に残された貴重な湿原を何とか未来の子どもたちへと残していきたいと思っています。そのためには、少しでも多くの方々に湿地の価値を知ってもらうことが重要です。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします！

## ミズゴケポット を作ってみよう！

9月29日、江別市で造成中の江別太遊水地でミズゴケをレスキューしました。ミズゴケは、かつての広大な石狩湿原のベースとなっていた植物で、水をよく含み、様々な湿生植物の苗床にもなるものです。今回は乾燥化等によりミズゴケの生育に良好な場所とはいえなくなった場所からレスキューしました。

手づかみで引き抜いたミズゴケはポットにまとめたり、発泡スチロールのフロートにピンセットで移植したりして救出の準備をしました。ミズゴケ群落はふわふわしていて、中に手を入れるとひんやりと気持ち良かったです。これらのミズゴケは湿原の自然再生事業が行われている夕張川の河川敷へと救出しました。5年も経てば、いっぱいが増えてくれることでしょう！

また、これとは別に里親さん募集のためのかわいいミズゴケガラスポットも作りました。これは今後のイベントなどでミズゴケの里親募集する際に配布する予定です。



# 合同湿地探索会

石狩川流域には、既存の保全団体による保全活動や、学術的な研究の対象となっていない湿地が、随所に残されています。当ネットワークによる探索で実態を明らかにする合同探索会を、2017・2018年度に続いて本年度も開催しました。

2019年度は、江別市・石狩市・月形町・新十津川町の合計7か所の湿地を探索しました。

3年連続となる世田谷湿原（江別市）では探索範囲を拡大したところ、イワノガリヤスやサワギキョウを特徴とするリッチフェンが確認でき、エゾアカガエルが目撃されました。

今年度は山地の湿原にも注目しました。空中写真で判読した新十津川町山間部の湿原様草原を、二度にわたる探索によって湿原と確認し、徳富南湿原（仮称）と命名しました。

一方で、複数の湿原で進行中の開発行為を目の当たりにしたことも、今年度の合同探索会の特徴でした。来年度も合同探索会の取り組みを継続し、石狩川流域における湿地のデータベースの構築・拡充へと繋げ、各湿地の保全・再生を考える土台ともしていきたいと考えております。

## 2019年度の探索記録

5/19	江別市 世田谷湿原	リッチフェン部分の確認、エゾアカガエルの生息確認
6/16	月形町 月ヶ湖湿原	ミツガシワの確認
6/23	新十津川町 徳富南湿原（仮称）	山地湿原の確認
8/18	石狩市 美登位小原野群	ホザキナナカマドやヤチヤナギの確認
9/14	新十津川町 徳富南湿原（仮称）	山地湿原の追加調査、湿原内部の人為的攪乱の確認



徳富南湿原（仮称）



世田谷湿原のエゾアカガエル

## しっちソングのお披露目！

# しめっちフェスタ

8月25日に宮島沼にてしめっちフェスタ2019を開催しました！昨年に引き続き、宮島沼カントリーフェス2019との合同開催でした。しめっちフェスタでは、石狩川流域湿地・水辺・海岸ネットワークの団体紹介のほか、会員団体の展示を行いました！また、ツルコケモモなどの海浜植物展示や、しめっちグッズ「編んだもんだら」の販売も行いました！

今年はゲストとして、ブルーグラスバンド、The Horse Bone Bros. さんが軽トラのステージでライブを開催！しめっちのためのしっちソングを披露してくれました。印象に残る素敵な歌をありがとうございます！



## しっちソング「湿地、知っちまった」に寄せて 中原ナオヒコ (The Horse Bone Bros.)

2019年の春、しめっちネットの鈴木玲さんと知り合い、美唄・宮島沼での「しめっちフェスタ」にお招きいただいた際、彼は「湿地、知っちまった」というフレーズを発案し、曲を作ることを依頼されたのでした。ですからこの曲は玲さんとワタクシの共作です。歌詞は、渡り鳥が教えてくれたのです。



しっちソングはこちらのサイトで聞けます。(YouTube 動画)

## アイデア募集の場 サポーターミーティング

しめっちネットのイベント参加者は専門家や愛好家が多く、一般の方の参加が少ない状況でした。一般の方の参加やサポーター登録している皆さんにもしめっちネットに関心を持ってほしいという思いから、しめっちネットの活動について考える「サポーターミーティング」がうまれました。

① 7/12 (金) 市民活動プラザ星園にて、活動報告としめっちに期待することややりたいことを話す座談会を開催。9月に江別太遊水地のミズゴケ救出活動等を行うことにしました。

② 12/16 (月) フェアトレード雑貨&レストランみんなるにて、北海道大学の松島肇さんに「海辺で・・・こと」として市民が海辺の自然回復に関わる活動についてお話しいただき、その後参加者と第4回フォーラムについてアイディアを出し合いました。

今後も、しめっちネットに関心を持ってくださる皆さんとお話しする場をつくっていきたいと思います。



## ヒシを食べてみよう！

今年度は、池や湖沼の水面に葉を浮かべるヒシという植物の活用を学びました。アイヌ語では「ペカンペ」と呼び、デンプンが多く含まれているため、湖畔のコタンの人々にとっては重要な食糧だったそうです。

9月に石狩川当別地区自然再生事業地にてヒシの実の採取活動を行い2500個ほど採取し、12月に札幌市厚別区民センターにて利活用のワークショップを開催しました。アイヌ文化活動アドバイザーである川上裕子さん、川上あずささんの指導の下、アイヌ文化に伝わる方法で5品のヒシ料理を作ったほか、ヒシをモチーフにしたアイヌ文様や、ヒシを採る様子を表現したウポポ（歌と踊り）を楽しく教えていただきました。

胴長を履いて池に入りヒシの実を一緒に採ってくださったり、ワークショップに参加してくださった方々の中で、この体験を通してヒシに興味を持ったり湿地を好きになってくれた方がいたらとても嬉しいです。



## しめ飾り作り体験会へ参加！

2019年3月には千歳市の泉郷で、12月には函館市の道南四季の杜公園で、スゲを使ったしめ縄づくりを勉強しました。近年、しめ縄は石油製品のものが多く見られ、お正月用に販売されているしめ飾りも中国製のものがほとんどです。かつてそこら中にあったスゲが群生する湿地は減少し、スゲでしめ縄を作る文化も貴重なものとなっています。道南四季の杜公園には水田の隣にスゲ田があり、地元の方がスゲ田の管理やしめ縄づくりの講師をしてくださっていますが、後継者不足の問題もあるそうです。

しめっちネットでは、湿地の減少とともに消失の危機にある文化を体験するワークショップを今後も行い、多くの方々に湿地の魅力を伝えていきたいと考えています。



## 星置養護学校高等部・江別すずらん病院での植物増殖活動

より多くの人に湿地の保全・再生に関わってもらって仲間を増やす活動を展開しています。（協力：環境カウンセラーの坂元さん（(株)エコテック）とNPO法人人まち育てI&I）

### ・星置養護学校高等部でミズゴケ増殖活動（2018年～）

養護学校の先生と生徒の皆さんの協力のもと、石狩川下流域の湿地でレスキューしたミズゴケを増殖用フロートに移植し校舎中庭で育ててもらった活動を始めています。湿地とミズゴケに関する説明の後、ミズゴケフロートの4つの孔（φ5cm：水を含ませた乾燥ミズゴケを充填）にミズゴケを一本ずつピンセットで丁寧に挿し、水に浮かべて育成しています。

### ・江別すずらん病院デイケアで湿生植物とミズゴケ育成活動（2018年～）

病院スタッフと利用者の皆さんの協力のもと、江別周辺の湿地で採種した湿生植物をタネから育て、またミズゴケも育苗箱に敷いた泥炭の上に載せ、病院中庭で育てています。2019年秋に幌向湿地再生地に一部植栽しました。



地域の  
自然を  
学びあう

いしかり  
UMIBE  
キッズクラブ × マガレンジャー

宮島沼自然戦隊

宮島沼カントリーフェス2019に参加しました。会場をマガレンジャーの男の子たちが案内してくれました。ありがとう！キッズクラブは乾燥したハマナスの花弁のポプリ作りを出店しました。マガレンジャーの子たちも体験しに来てくれて「バラのようないい香りがする！」とってくれました。お土産にマガレンジャーが売っている缶バッチを購入。「こういうの私たちも作りたい！」と新たな商品づくりの参考にしていました。

# その他のお知らせ・ご報告

## 助成金について

今年度は、以下の助成金の採択を受け、活動を行っています。北海道e-水プロジェクトでは、4月12日にはキックオフミーティングへ参加し、11月21日にはe-水フォーラムにて活動報告を行いました。

- ・北海道e-水プロジェクト (北海道コカ・コーラボトリング・北海道・公益財団法人北海道環境財団)
- ・北洋銀行 ほっくー基金 (北海道生物多様性保全活動連携支援センター (HoBiCC))
- ・SAVE JAPANプロジェクト2020 (損保ジャパン日本興亜株式会社)

## YouTubeで動画配信中 しめっちチャンネル

しめっちネットでは、YouTubeで動画配信を行っています！しめっちムービーでは、よしもと興業の芸人アップダウンさんと一緒に湿地について学べます！宮島沼水鳥・湿地センターの牛山克巳さんも出演していますよ～！

また、「湿地、知っちゃった♪」を披露しているしっちフェスタでの動画も配信開始しました！1度聴くと耳に残る湿地知っちゃった、ぜひお聴きください！チャンネル登録はこちらから



## 北海道湿地の祭典 シツチスイツチ 開催決定！

オール北海道の湿地の祭典「シツチスイツチ」を開催！減少と劣化の一途をたどる湿地を社会全体として守り育む方向にSwitch (転換) する…。そんな「北海道における湿地の主流化」をテーマに、各分野のスペシャリストによるサイエンスセッション、湿地で活動する方によるポスター・ブースセッション、あっと驚く演出満載のエンタメセッションの3部構成。10月24日(土)～25日(日)創世スクエアに集合！



# しめっちネット 活動と会員

かつて石狩川流域に広がっていた広大な湿地は農地開発やインフラ整備によってほとんどが失われ、それとともに豊かな自然環境や生活文化も姿を消しました。現在残されたわずかな湿地などの環境は各地域の市民団体などが保全・利活用の活動を進めていますが、常に失われる危機に瀕しています。そこで、たくさんの人に湿地の魅力と価値と現状を伝えるため、各地の団体がつながって力を集め、湿地の未来を作っていくと結成したのがこのネットワークです。

私たちは、環境の保全・再生・研究や、持続的な利活用の推進を行い、貴重な文化や自然環境を未来に残すために活動を行っています。また、湿地と地域社会のパートナーシップを作り、育てることで地域の活性化と湿地・人が共生する地域社会の形成を目指しています。

**仲間募集！** 一緒に活動してくれる仲間や活動への支援を募集しています。身近な自然環境について、ともに考え、行動しませんか？

### ● 正会員

当ネットワークの趣旨に賛同し、運営に協力する意思があり、石狩川流域の湿原・水辺・海岸の環境保全・動植物保護に何らかの形で関与する団体。ネットワークの運営に参加することができます。  
年会費 5,000 円

### ● 賛助会員

当ネットワークの趣旨に賛同し、財政面で協力する意思のある個人や団体。メールリストでネットワークの情報が提供されます。  
年会費 5,000 円 (団体) 1,000 円 (個人)

### ● サポーター

当ネットワークの趣旨に賛同し、活動に興味のある方にご登録いただけます。ネットワークのイベントや情報をお届けします。



お問い合わせ・お申込み  
**石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク (しめっちネット)**  
 札幌市中央区南8条西2丁目5-74 市民活動プラザ星園 201号 (北海道NPOサポートセンター内)  
 ☎ 011-200-0973 ✉ info@ishikarigawa-net.com  
 🌐 http://ishikarigawa-net.com/

**編集後記**  
 サポーターミーティングをきっかけに、イベントでのサポートやニュースレターの編集に関わらせていただきました！今後、湿地や湿地を取り巻く生き物を守っていきたい！という仲間が増えるとうれしいです。福田あゆみ

しめっちマスコット トーくん

